

テニスを楽しむ会 於 軽井沢

還暦祝いの 65 期同期会の年にスタートとしたテニスを楽しむ会ですが、古希までは続けようという目標に向け毎年 2 回の会を開催してきました。そして、ついに本年 10/20～10/21 に軽井沢 の地においてその時を迎えました。

集合したのは、内堀信、関賢治、佐藤徹郎、原田義則、若柳直人、布施の 6 名でチャーターメンバーの宮澤憲一、中山正光、途中からの常連、浅倉英樹、塩川明男、牧野泰晴らはそれぞれの事情により不参加となり、些か寂しい集いとなりました。

テニスはもちろんですが、宿泊日の前夜祭も楽しみであり、軽井沢エクシブの中華「翠陽」の円卓を囲んでの会話、部屋での二次会は、談論風発とはならないまでも、いつも楽しく興味深い時間となっております。今回の会の冒頭には、原田さんより重大？な発表、氏の地元鳩山町のテニス大会のシニアダブルスで優勝したとの報告があり、宴会が一気に盛り上がりました。

今回の話題の中心は上田小県界隈の「方言」についてであり、主なものを挙げると、大根などを間引く「おろぬいた」、まあまあな状態を示す「なから良い」、「ずくがなし」、走ることを「飛ぶ」、「しみる」、「小便をまる」、仲間に入れての「かてれや」など枚挙にいとまがありませんでした。個人の苗字でも地域によりアクセントに違いがあることも確認されました。出席していれば必ず一言居士になる N 氏については、欠席裁判故、高尚さが無い、メール文の変換ミスが多いなど、批判？が続出したものの、この集いの名物男が居ない寂しさを皆が覚えた様です。

肝心のテニスですが、21 日(日)起床後、イタリアンレストランで何故か？アメリカンブレックファーストをゆっくりと頂いた後、エクシブのテニスコートが満杯の為、お隣の JNS テニスアカデミーのオムニコートに移動し行いました。

古希を迎えた 6 名で何ゲームかをこなすには、人数的、体力的に無理があるので、上田市在住 75 期卒のテニス部 OB に助っ人をお願いし、4 ゲーム先取、各人 8 セットをこなすべくスタートしました。前半は皆元気よく、ジュース・ジュースの熱戦が続きましたが、後半は体力、集中力がなくなり 4-0 など淡白な試合が多くなりました。それでも、8 セット目は全員頑張り好ゲームとなり、全てを消化致しました。第 1 位は日頃の鍛錬が功を奏し関賢司君が、最下位には名誉の為イニシャルで S 君がという結果になり、軽井沢エクシブでの古希までの会の達成を祝し、来年は、エクシブの中でも人気の高い熱海の初島エクシブで開催することを決定事項として散会となりました。



布施修一郎

原田 佐藤 内堀 若柳 布施 関 櫻井 (75 期)